

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	整形外科学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
谷本 幸洋										

〔授業の学習内容と心構え〕

現役の整形外科医師による、高頻度に遭遇しうる整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を俯瞰して診ることが出来るよう運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。学生にはスポーツ医学の視点も含め興味関心を持って望んで欲しい。

〔到達目標〕

各整形外科疾患を全身性疾患から胸郭より上位の各疾患について、概要・疫学・症状・診断・治療について理解できる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準 整形外科学:医学書院

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	骨	骨の仕組み・解剖・生理等を理解する
2	関節・筋・神経	関節・筋・神経の仕組み・解剖・生理を理解する
3	整形外科的現症の取り方・検査	整形外科に特有の現症・所見の取り方、検査について理解する
4	保存療法・手術療法	整形外科における保存療法・手術療法の一般的な知識について理解する
5	関節リウマチ	関節リウマチの疾患特性、特徴的な所見、治療等について理解する
6	変形性関節症・循環障害・阻血壊死性疾患	変形性関節症の疾患特性、特徴的な所見、治療等について理解する
7	先天性疾患	整形外科領域でみられる先天性疾患について理解する
8	中間テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
9	代謝性骨疾患	特に骨粗鬆症と骨軟化症・くる病について理解する
10	骨腫瘍・軟部腫瘍・神経筋疾患	骨軟部腫瘍について理解する。整形外科で診る可能性がある神経筋疾患について理解する
11	肩関節	肩関節における損傷や異常について理解が出来る。
12	肘関節	肘関節における損傷や異常について理解が出来る。
13	手関節・手	手関節・手における損傷や異常について理解が出来る。
14	頸椎・胸郭	頸椎・胸郭における損傷や異常について理解が出来る。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験と出席・小テスト評価等総合的に行う。
筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

予習は最低限でよい(今回授業の目次を見る程度)
授業後は配布プリントの習熟を中心に、しっかりと理解・暗記を行うこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	整形外科学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
谷本 幸洋										

〔授業の学習内容と心構え〕

現役の整形外科医師による、高頻度に遭遇する整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を俯瞰して診ることが出来るよう運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。学生にはスポーツ医学の視点も含め興味関心を持って望んで欲しい。

〔到達目標〕

各整形外科疾患を全身性疾患から胸郭より上位の各疾患について、概要・疫学・症状・診断・治療について理解できる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準 整形外科学:医学書院

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	胸椎・腰椎(概略-腰椎変性疾患)	胸椎や腰椎の椎間板ヘルニア始め運動器障害における疾患を理解できる。
2	腰椎(急性腰痛発作-脊髄腫瘍)	整形外科的腰椎疾患から原発性腫瘍と転移性腫瘍の病態まで把握できる。
3	股関節(概略-ペルテス病)	小児から成人に至る股関節の主な疾患を理解できる。
4	股関節(大腿骨頭すべり症-骨盤輪の疾患)	小児から成人に至る股関節の主な疾患を理解できる。
5	股関節(股関節の手術)、膝関節(概略-発育期の膝関節障害)	股関節手術・手術後の状態及び膝関節に罹る発育段階にける傷害を理解できる。
6	膝関節(半月板損傷-膝周囲の関節包・滑液胞の異常)	膝関節における損傷や異常について理解出来る。
7	足関節と足趾	足関節と足趾に関わる疾患を理解できる。
8	外傷総論、軟部組織損傷	機械的外力などにより、結合組織が損傷を受けた状態を理解できる。
9	骨折・脱臼(上肢の外傷)	骨折・脱臼(上肢の外傷)の病態について理解できる。
10	骨折・脱臼(下肢の外傷)	下肢の骨折と脱臼について理解できる。
11	脊椎・脊髄損傷(脊髄損傷)	脊椎・脊髄損傷について理解する
12	末梢神経損傷	代表的な末梢神経損傷と整形外科を理解する。
13	スポーツ損傷	スポーツ障害・外傷について理解する
14	まとめ	1年間の講義についてのまとめ
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書んでくること。
授業後は復習をして用語の意味を理解することが望ましい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			ILC(Paul Searle)	
授業科目名	医学英語		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕</p> <p>患者が来院して、外来受付から各科での受診、検査、治療までの各場面で基本的な英語コミュニケーション力を習得するため、基本語彙や重要表現を「聞いて理解できる」「話すことができる」「読んで理解できる」「書いて表現することができる」ように、ロールプレイなどのアクティビティを通して学習する。</p>											
<p>〔到達目標〕</p> <p>病院現場での英語での会話を理解し、英語での対応が必要な状況で貢献できるようになる。授業中のコミュニケーション練習により一般病棟や理学療法科での英語話者である患者の診察、援助、指示する際に必要となる英語のインプット、アウトプットの両方の能力を養う。</p>											
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>医療英語コミュニケーション 国際教育社</p>											
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)									
1	オリエンテーション Chapter 1 受付	コースオリエンテーション 受付について説明できる。 患者に丁寧に質問することができる。									
2	Chapter 3 症状(1)痛み Chapter 4 症状(2)その他	体の部位を説明できる。痛みについて質問できる。 患者の症状の詳細を確認できる。									
3	Chapter 5 問診(1)既往歴・家族歴 Chapter 6 問診(2)アレルギー・生活習慣	患者の既往歴を確認できる。 患者さんの今の症状や生活習慣を確認できる。									
4	Chapter 7 内科(1)身体計測・診察時の表現	命令形を使って、治療について患者に指示できる。 条件文を使って、丁寧に患者に指示できる。バイタルサインを測定できる。									
5	Chapter 10 検査と処置 Chapter 12 整形外科・整骨院(接骨院)	患者に検査と処置(の手順)について説明できる。 検査中、患者に指示できる。 骨の名称を知る・言える。患者の傷害を確認できる。									
6	Chapter 13 リハビリテーション(1) Chapter 14 リハビリテーション(2)	関節可動域に関する語彙を知る。 リハビリ治療用の機器の名称、筋肉の名称を知る。 リハビリ治療用の機器の使い方を説明できる。									
7	復習 定期試験	定期試験に向けて復習する。 定期試験を受験する。									
8	試験解説 全体振り返り	定期試験の解説および全体の授業の振り返りをおこない、講義全体の理解を深める。									
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15	期末テスト 解説										
〔成績評価について〕						〔特記事項・授業時間外における学習〕					
定期試験(筆記) 100%						シラバスを確認しテキストの内容を事前に確認しておくこと。 授業後には実施内容について復習をすること。					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名					佐藤 俊生			
障がい者スポーツ論	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

スポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援するための知識を習得する。また中級パラスポーツ指導員資格を有する理学療法士が授業を行うことで、理学療法士として障がい者のスポーツ活動が支援できるよう、知識、技術を習得する。

[到達目標]

パラスポーツに関する制度や障がい者の特徴、安全管理などについて学習するとともに、実際のスポーツに参加し、障がい者の方と交流を図る。そして未経験や初心者の方の障がい者に対してスポーツ活動への参加を促すことができる。

[使用教材、参考文献等]

教材) 授業内で配布

参考文献) 障がいのある人のスポーツ指導教本(ぎょうせい、R2)、障がい者スポーツ指導教本(ぎょうせい、H28)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	「しょうがい」とは何か パラスポーツに関する諸施策	各障がいに関する法律や障がい福祉施策とパラスポーツに関する施策を説明できる。
2	コミュニケーションスキルの基礎	パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキル・ソーシャルスキルを説明できる。
3	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	スポーツにおけるインテグリティを理解し、指導者に求められる資質を説明できる。
4	パラスポーツの意義と理念 パラスポーツの意義や理念について理解する	パラスポーツの意義を説明できる。
5	安全管理、応急処置について学習する	安全管理、応急処置の手順を説明できる。
6	障がい者の基礎知識1(身体) 頸椎損傷、脊髄障害	脊髄損傷や脳性障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
7	障がい者の基礎知識1(身体) 脳性麻痺、脳血管障害	脳性障がい、脳血管障害の特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
8	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (ポッチャ)	実際にポッチャを体験する。
9	障がい者の基礎知識1 視覚障害	視覚障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
10	障がい者の基礎知識1 聴覚障害	聴覚障がい、の特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
11	障がい者の基礎知識(知的・精神) 知的障がいと精神障がいについて理解する	知的障がいや精神障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
12	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (シッティングバレーボール)	実際にシッティングバレーボールを体験し、実施上の留意点や競技特性を説明できる。
13	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (フライングディスク)	実際にフライングディスクを使用したスポーツを体験し、実施上の留意点や競技特性を説明できる。
14	道具について知ろう 義足、車椅子、杖、補装具	パラスポーツでよく用いられる用具を知り、スポーツ実施上の工夫を述べられる。
15	パラスポーツの実際 当事者との交流	パラスポーツを実際に行っている方から話を聞き、感想を述べられる。(課題あり)

[成績評価について]

中間試験(レポート課題) 40%
 期末試験(レポート課題) 40%
 当事者との交流の課題 20%

[特記事項・授業時間外における学習]

授業で実施した内容に関して自分の意見を述べられるように復習すること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕</p> <p>基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士(元教授)が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。</p>										
<p>〔到達目標〕</p> <p>理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、内分泌系、末梢神経系、局所および体表解剖学についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。</p>										
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>教科書:標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院、 配布プリント</p>										
回	〔授業単元〕		到達目標(できるようになること)							
1	内分泌系		内分泌腺の位置とホルモンの名称及び作用を説明できる							
2	内分泌系		内分泌腺の位置とホルモンの名称及び作用を説明できる							
3	末梢神経系: 脊髄神経		脊髄および脊髄神経の構造と機能が説明できる。							
4	脊髄神経: 頸神経叢		頸神経叢および腕神経叢の構成を説明できる。							
5	脊髄神経: 腕神経叢		腕神経叢の構成と機能、筋皮神経の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
6	脊髄神経: 腕神経叢の枝		腋窩神経・正中神経の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
7	脊髄神経: 腕神経叢の枝		橈骨神経・尺骨神経の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
8	脊髄神経: 胸神経の枝		胸神経の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
9	脊髄神経: 腰神経叢の枝		腰神経叢の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
10	脊髄神経: 仙骨神経叢の枝・(坐骨神経)		仙骨神経叢の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
11	局所解剖と体表解剖		頭頸部と体幹の局所解剖と体表解剖を説明できる。							
12	局所解剖と体表解剖		上肢と下肢の局所解剖と体表解剖を説明できる。							
13	内分泌系、末梢神経系の国家試験対策		内分泌系、末梢神経系をの国家試験問題を説明できる							
14	末梢神経系、局所・体表解剖の国家試験対策		末梢神経系、局所・体表解剖の国家試験問題を説明できる							
15	期末テスト 解説		試験・解説を通し理解度を把握する							
〔成績評価について〕						〔特記事項・授業時間外における学習〕				
<p>科目の評価は、期末テスト70%、小テスト(3回)30%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は完成法(穴埋め)および多肢選択で行う。</p>						<p>各講義ごとに復習しながら、小テストに臨み、小テストの結果を踏まえて理解を深め、定期テストで内分泌系、脊髄神経系および人体の正常な形態とそれに伴う機能を説明できるようにする。</p>				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			島田 章則
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 病理学教育(動物・人体)・研究(黄砂の肺毒性)を20年間担当し、病気の発生機序を探求してきました。また、ラグビー競技を続ける中で、打撲・捻挫・骨折や皮膚移植手術などを経験しました。運動機能障害に加え、様々な疾患を抱えている可能性がある対象者に適切なハビリテーションを行いQOL向上を促すためには、患者の背景にある諸疾患の病理発生を理解し、幅広い病態について考え、症状の仕組みについて学んでおく必要があります。スポーツでの外傷・入院・リハビリの自身の経験を踏まえ、わかりやすく実際の解説を行い「認められる専門家」育成を心掛けます。									
〔到達目標〕 脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患による運動機能障害を有する患者は、高血圧や糖尿病などの内科的疾患が背景にあることが多いので、局所だけでなく全身を観察することの意義を理解する。手足・脳の傷の発生(出血)、進行(組織圧迫)、修復(線維化)の過程をイメージできる。それにより、理学療法士として適切な処置(RICE)が可能となる。									
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 病理学									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	病因、退行性病変、進行性病変	病因(外因、内因)、変性、萎縮、壊死、肥大、過形成、化生、創傷治癒(肉芽組織、瘢痕)を理解できる。							
2	代謝障害、循環障害	各栄養素(蛋白質、脂質、糖質)別代謝疾患、局所・全身循環障害を理解できる。							
3	免疫(アレルギー、自己免疫疾患)	アレルギー性組織傷害(アレルギー反応)、自己免疫疾患の種類・特徴・例を理解できる。							
4	炎症、感染症	炎症の特徴、炎症にかかわる細胞、炎症・感染症の種類、原因となる病原微生物を理解できる。							
5	腫瘍	腫瘍の定義、悪性腫瘍の特徴、転移形式、発がんの原因・メカニズムを理解できる。							
6	老化、先天異常・奇形	加齢に伴う疾患、先天異常・奇形(遺伝子・染色体異常、疾患)を理解できる。							
7	循環器(心臓、血管)の病理	脊柱の構造が理解できる。 頸椎・胸椎・腰椎の構造が理解できる。							
8	呼吸器の病理	呼吸器の構造・機能、肺炎、肺うっ血・肺水腫、気管支の疾患、肺腫瘍を理解できる。							
9	消化器の病理	消化器の構造・機能、胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓の炎症、疾患と腫瘍についての理解度を深める。							
10	神経系の病理	中枢神経系の構造・特徴、脳血管障害(脳梗塞、脳出血)、感染症、神経変性性疾患、外傷を理解できる。							
11	運動器の病理	運動器の構造・機能、骨・関節・筋肉の疾患(骨折、腫瘍、関節リウマチ等)とその特徴を理解できる。							
12	泌尿・生殖器の病理	泌尿・生殖器の構造・機能、腎炎、糸球体病変、膀胱炎、前立腺疾患、生殖器感染症・腫瘍を理解できる。							
13	内分泌臓器、皮膚、感覚器の病理	内分泌の仕組み、各種ホルモンの分泌亢進・低下に伴う疾患、皮膚・眼・耳の構造と疾患を理解できる。							
14	造血器の病理	正常な造血、骨髄・リンパ節の構造と機能・疾患、貧血の機序、白血病・リンパ腫を理解できる。							
15	期末テスト 解説	授業全体の内容のテストにより理解度の判定を行う。習得不十分なところを把握し、理解度を深める。							
〔成績評価について〕					〔特記事項・授業時間外における学習〕				
評価は毎回の小テスト(5点)合計70点満点+期末試験30点満点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎回の授業で、1.講義開始時に、講義該当部分の教科書の重要点の確認、2.講義の最後に、理解度の把握を目的とした小テスト(5問:2問は当日の授業内容、3問は前回の授業内容から出題)を実施します。毎授業において教科書の重要部分を読んでの予習および復習をしておくこと。				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	神経内科学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
渡辺 寛										

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員はリハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の病態と診断を理解し、理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学習する。

〔到達目標〕

理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来る。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野
神経内科学 医学書院

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 解剖学(神経系)の復習	本科目の意義と概論を理解できる。
2	中枢神経系の解剖と機能(中枢神経系)	中枢神経系で習得した内容を再度理解できる。
3	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脳神経)	抹消神経系(脳神経)の内容を再度理解できる。
4	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脊髄神経)	抹消神経系(脊髄神経)の内容を再度理解できる。
5	神経症候を学ぶ 錐体路	意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。
6	神経症候を学ぶ 錐体外路・小脳症状	意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。
7	神経症候を学ぶ 感覚路1	感覚障害の分布と特徴を理解できる。
8	神経症候を学ぶ 感覚路2	感覚障害の分布と特徴を理解できる。
9	高次脳機能障害(失語・失行)	高次運動障害を理解できる。
10	高次脳機能障害(記憶・認知)	高次運動障害を理解できる。
11	高次脳機能障害(構音・嚥下)	高次運動障害を理解できる。
12	神経学的診察	診察の方法が理解できる
13	神経学的検査	検査方法について理解できる
14	前期まとめ	神経内科学総論について理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

筆記試験小テスト30点と期末テスト70点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	神経内科学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
渡辺 寛										

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員はリハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の病態と診断を理解し、理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学習する。

〔到達目標〕

理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来る。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野
神経内科学 医学書院

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 解剖学(神経系)の復習	本科目の意義と概論を理解できる。
2	脳卒中総論	脳卒中全般について理解できる
3	くも膜下出血	くも膜下出血について理解できる。
4	脳内出血	脳内出血について理解できる
5	脳梗塞	脳梗塞について理解できる
6	脳腫瘍	脳腫瘍について理解できる
7	頭部外傷総論	頭部外傷について理解できる
8	頭部外傷各論	頭部外傷について理解できる
9	変性疾患	変性疾患について理解できる
10	認知症	認知症について理解できる
11	感染性疾患・機能性疾患	感染性疾患・機能性疾患について理解できる
12	脊髄性疾患	脊髄性疾患について理解できる
13	末梢神経・筋疾患	末梢神経・筋疾患について理解できる
14	後期まとめ	疾患各論について理解できる
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行い、評価は学則規定に準ずる。
小テスト30点
期末試験70点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	臨床心理学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
齋藤 悠里										

〔授業の学習内容と心構え〕

臨床心理士であり、精神科デイケア職員、リワークグループ運営者、自殺防止相談員としての経験がある講師である。人の心の在りようを理解するために、臨床心理学の様々な心理療法の知見について、体系的に学ぶ。臨床心理学の知見を知識として理解させるのではなく、ワークを通して実体験として理解させ、より実際に役に立つものとして習得させる。

〔到達目標〕

臨床心理学の様々な心理療法を実体験を通して理解することで、患者さんがどのような心理状態にあるかを説明できるようにする。このことで、体の治療だけを目指すのではなく、患者さんがどのような心理的な辛さを抱えているかをイメージでき、治療の際の適切な言葉かけが出来るようにする。また、自分に起きる心理的变化を理解し、これをコントロールできるようになる

〔使用教材、参考文献等〕

専門職のための臨床心理学基礎

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	臨床心理学の概念。臨床心理学の誕生と歴史 理学療法士の臨床における臨床心理学の役割	臨床心理学の概要について説明でき、理学療法士が臨床で使える臨床心理学について説明できる
2	精神分析学・精神分析療法理論の発生から発展の経緯及び防衛機制などの各項目の定義。	精神分析学の理論及び精神分析療法の歴史を説明でき、様々な概念を定義できる
3	精神分析学から発展した理論と各項目の定義	分析心理学や、ゲシュタルト療法の理論や各項目の定義について理解し、説明できる
4	家族療法の理論及び各項目の定義。 日本で生まれた療法の理論について説明する	家族療法の概念と運用が説明でき、森田療法や内観療法の理論と実際の運営について説明できる
5	来談者中心療法の歴史と実際の運営についての理解とワークを通じた実体験による理解	来談者中心療法の理論と運営について、実際のワークを通して理解し、説明できる。
6	行動療法の歴史と理論について説明する。	行動療法の理論と技法について実際のワークを通して理解し、説明できる。
7	認知行動療法の歴史と理論について説明する。	認知行動療法の理論と技法について実際のワークを通して理解し、説明できる。
8	中間テスト、解説	中間テスト・解説により学習内容の効果測定を行う
9	心理検査の歴史及び理論と知能検査を説明する	心理検査の歴史及び理論と知能検査について定義できる
10	パーソナリティに関する理論について理解する	パーソナリティについて説明できる
11	発達の理論について概説し、一般的な発達理論とピアジェ、エリクソンの発達理論について説明する	ピアジェとエリクソンなどの発達理論を理解し、一般的な発達理論も定義できる
12	記憶および学習理論について詳細に理解する	記憶および学習理論について身近な問題として理解し、説明できる
13	臨床心理学総復習	これまで習った臨床心理学について、区別できそれぞれの定義を説明できる
14	期末テスト	テストにより学習内容の効果測定を行う
15	期末テスト解説 臨床心理学の重要点について理解する	臨床心理学で学習した事項を、日常生活や支援に役立つようになる

〔成績評価について〕

評価については、中間テスト(40%)、期末テスト(40%)と小テスト10回(計20%)の合計により評価する。評価は、学則規定に準ずる

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業前に参考文献の該当項目を予習すること。
授業後にホームワークを課すため、次回授業日までに自分の力で課題に取り組むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			伊藤 春雄
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 教科書に基づいた配布資料で説明する。講義を聴きながらメモを取り、講義後に教科書を読むと良い。教科書、配布資料の補助として画像を提示して説明する。教科書では図表の解説も重視する。理学療法士にとって必要な知識という観点から、基礎医学である解剖、生理、病理、薬理学の知識と結びつけながら、臨床科目である内科学の全体構造を説明する。									
〔到達目標〕 内科疾患の主要なものについて、「病気の成り立ち」に留意して簡潔に説明ができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 内科学(第5版第1刷:2024) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 医学書院									
回	〔授業単元〕			到達目標(できるようになること)					
1	1. 内科学とは			内科学にとってのリハビリテーションの意義を説明できる					
2	2. 内科的診断と治療の実際 : 診療録			問題指向型診療録(POMR)を説明できる					
3	診察法 : 視診、触診、打診、聴診			医療人として真摯な診察ができ、所見を取れる					
4	臨床検査、内科的治療			検査、投薬について基本的な説明ができる					
5	3. 症候学			各種徴候の生理・病理と主な原因疾患をまとめる					
6	4. 循環器疾患(1) : 総論			解剖・生理を医学的観点でまとめる					
7	循環器疾患(2) : 各論			各疾患について、簡潔に説明できる					
8	中間試験			①～⑦回目までの内容で出題する					
9	循環器疾患(3) : 各論			各疾患について、簡潔に説明できる					
10	5. 呼吸器疾患(1) : 総論			解剖・生理を医学的観点でまとめる					
11	呼吸器疾患(2) : 各論			各疾患について、簡潔に説明できる					
12	6. 消化管疾患(1) : 総論			解剖・生理を医学的観点でまとめる					
13	消化管疾患(2) : 各論			各疾患について、簡潔に説明できる					
14	7. 肝胆膵疾患(1) : 総論			解剖・生理を医学的観点でまとめ、各疾患について、簡潔に説明できる					
15	期末試験、解説			①～⑭回目までの内容で出題する。 試験・解説を通じて理解度を確認する。					
〔成績評価について〕 中間試験(30点)と期末試験(70点)の合計100点 で評価する。 評価は学則規定に則る。				〔特記事項・授業時間外における学習〕 予習としてシラバス及び配布資料に明示のページ数から教科書を読む。復習として、配布資料と教科書の内容を照合し、ノートに要旨をまとめると良い。 まとめたノートを持参した際は助言、指導する。					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	内科学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕</p> <p>教科書に基づいた配布資料で説明する。講義を聴きながらメモを取り、講義後に教科書を読むと良い。教科書、配布資料の補助として画像を提示して説明する。教科書では図表の解説も重視する。理学療法士にとって必要な知識という観点から、基礎医学である解剖、生理、病理、薬理学の知識と結びつけながら、臨床科目である内科学の全体構造を説明する。</p>										
<p>〔到達目標〕</p> <p>内科疾患の主要なものについて、「病気の成り立ち」に留意して簡潔に説明ができる。</p>										
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>内科学(第5版第1刷:2024) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 医学書院</p>										
回	〔授業単元〕		到達目標(できるようになること)							
1	8. 血液・造血器疾患(1):総論		解剖・生理を医学的観点でまとめる							
2	血液・造血器疾患(2):各論		各疾患について、簡潔に説明できる							
3	9. 代謝性疾患(1):総論		解剖・生理を医学的観点でまとめる							
4	代謝性疾患(2):各論		各疾患について、簡潔に説明できる							
5	10. 内分泌疾患(1):総論		解剖・生理を医学的観点でまとめる							
6	内分泌疾患(2):各論(1)		各疾患について、簡潔に説明できる							
7	内分泌疾患(3):各論(2)		各疾患について、簡潔に説明できる							
8	中間試験		①～⑦回目までの内容で出題する							
9	11. 腎・泌尿器疾患(1):総論		解剖・生理を医学的観点でまとめる							
10	腎・泌尿器疾患(2):各論		各疾患について、簡潔に説明できる							
11	12. アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症(1):総論		免疫機構・生理を医学的観点でまとめる							
12	アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症(2):各論		各疾患について、簡潔に説明できる							
13	13. 感染症(1):総論		感染症病原体・予防対策を医学的観点でまとめる							
14	感染症(2):各論		各疾患について、簡潔に説明できる							
15	期末試験、解説		①～⑭回目までの内容で出題する。 試験・解説を通じて理解度を確認する。							
〔成績評価について〕			〔特記事項・授業時間外における学習〕							
中間試験(30点)と期末試験(70点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に則る。			予習としてシラバス及び配布資料に明示のページ数から教科書を読む。復習として、配布資料と教科書の内容を照合し、ノートに要旨をまとめるが良い。 まとめたノートを持参した際は助言、指導する。							

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	学年	2			田中 信一			
病態運動学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

本講義では、実務経験のある教員から各関節の機能解剖学(構造、アライメント、筋の働き)、関節包内運動のメカニズムを学びます。それらの知識を土台として、臨床で遭遇する痛みや可動域制限などの病態がいかにして生じるのかを分析し、適切な評価と解釈を行う力を養います。痛みや筋力低下といった臨床での「なぜ」に対し、機能解剖学の側面から論理的に答えを導き出す思考過程を大切にしてください。

〔到達目標〕

1. 各関節の構造、アライメント、および関節包内運動を運動学的に説明できる。
2. 運動器疾患における機能障害を、機能解剖学的根拠に基づいて「病態のメカニズム」として解説できる。
3. 身体所見を機能解剖学的に解釈し、論理的な臨床推論を提示できる。

〔使用教材、参考文献等〕

運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈<上肢編><下肢編> 運動と医学の出版社
 参考: エッセンシャル・キネシオロジー原書第3版 南江堂

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	肩関節の機能解剖: 構造とアライメント	肩関節の複合的な構造と、安定機構(関節包・靭帯)を説明できる
2	肩関節の運動メカニズムと評価の解釈	正常な肩の動きからの逸脱を、機能解剖学的な「正常な軌道」に基づいて解釈できる
3	肩関節の病態と臨床推論	肩関節疾患の病態を、筋・腱の機能不全や支点のブレ(不安定性)から論理的に説明できる
4	肘関節の機能解剖と病態の解釈	肘関節の支持機構と運動特性を理解し、スポーツ障害や神経障害のメカニズムを解説できる
5	手関節・手指の機能解剖と評価	手関節、手指の特徴および関節包内運動を説明することができる。
6	手関節・手指の病態と臨床推論	手部の機能障害を、関節包内運動や筋の緊張バランス(内在筋・外在筋)から解釈できる
7	体幹・骨盤帯の構造と機能(脊柱・腰部)	脊柱の安定化機構を説明し、腰仙角の変化が力学的ストレス(剪断力)に及ぼす影響を解説できる
8	中間確認テスト 前半の振り返り	これまで学んだ上肢の機能解剖学を整理し、臨床的な「なぜ」に答える思考過程を確認できる。
9	体幹・骨盤帯の病態と臨床推論	脊柱・骨盤の機能障害が全身の運動連鎖や姿勢に及ぼす影響を論理的に説明できる
10	股関節の機能解剖: 安定性と可動性	股関節の求心性を保つメカニズムと、アライメント異常が適合性に及ぼす影響を説明できる
11	股関節の病態と評価の解釈	股関節疾患に伴う痛みや歩行容態の変化を、機能解剖学的根拠に基づいて解説できる
12	膝関節の機能解剖: 脛骨大腿関節	膝関節における「転がり・滑り」運動と、靭帯・半月板による安定化機構を説明できる
13	膝関節の病態(OA・靭帯損傷)と膝蓋大腿関節 足部・足関節の構造	膝関節の機能障害を、関節包内運動の逸脱や運動連鎖不全の観点から解釈できる
14	足部・足関節の構造・機能と運動連鎖	足部の衝撃吸収と推進力の切り替えメカニズムを理解し、全身への影響(運動連鎖)を説明できる
15	期末テスト 全体のまとめ	全身の関節機能を機能解剖学に基づいて統合的に理解し、病態に対する適切な評価と解釈を提示できる

〔成績評価について〕

小テスト、課題(20%)
 確認テスト(40%)
 期末テスト(40%)

〔特記事項・授業時間外における学習〕

小テスト(または課題)は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	理学療法セミナー		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
							田中 信一			

〔授業の学習内容と心構え〕

本授業では、理学療法における基本的な介助および評価技術を学ぶとともに、超音波体験や医療・スポーツ関連施設の見学を通して、医療およびスポーツ現場における理学療法士の役割を理解する。あわせて、理学療法士としての心構えを養い、基礎知識・技術と臨床現場で求められる能力の統合を図る。本授業は、医療・介護施設において実務経験を有する教員が、その経験に基づいて理学療法士養成を目的として実施する。

〔到達目標〕

- 1) 臨床実習において学生に求められる考え方および基本的態度を身につける。
- 2) 基本的な検査測定を適切に実施できる。
- 3) 基本的理学療法技術を理解し、スポーツ・医療現場における理学療法士の役割を説明できる。

〔使用教材、参考文献等〕

理学療法評価学 第6版補訂版、姿勢と動作 第3版

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	動作介助の基本 口頭指示、自立	適切な介助方法を説明できる。
2	動作介助の基本 部分介助、全介助	適切な介助方法を説明できる。
3	超音波画像による理学療法評価	理学療法における超音波使用の基礎を理解する。
4	超音波画像による理学療法評価	理学療法における超音波使用の基礎を理解する。
5	ネクストベース・アスリートラボ見学	トップアスリート支援と理学療法の関係を理解する。
6	JISS(国立スポーツ科学センター)見学	スポーツ科学支援における理学療法士の役割を理解する。
7	外相評価・応急処置	外傷評価・応急処置について説明できる。
8	コンディショニング、東洋医療概論	コンディショニング・東洋医学の視点を説明できる。
9	検査測定の確認 (バイタル、形態測定)	検査測定の手順を説明できる。
10	検査測定の確認 (関節可動域測定)	検査測定の手順を説明できる。
11	検査測定の確認 (MMT)	検査測定の手順を説明できる。
12	検査測定の確認 (疼痛検査、感覚検査)	検査測定の手順を説明できる。
13	検査測定の確認 (腱反射、その他)	検査測定の手順を説明できる。
14	実技確認試験	基本的な検査測定ができる。
15	検査測定体験実習 振り返り	検査測定体験実習を振り返り、課題を見つけることができる。

〔成績評価について〕

レポート課題60%
実技試験40%
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項についてはリメモをとること。
疑問点は担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			繁森 将太
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 理学療法を施行するにあたっての、適切な評価方法を学ぶ。安全な検査・測定を実施できるよう座学と実技にて授業を行なう。授業ごとに予習・復習を欠かさないよう充分留意すること。									
〔到達目標〕 理学療法における身体機能の評価方法を正しく理解し、安全かつ正確に行なえるようになる。また、学んだ知識、技術を他者に分かりやすく、正確に伝えられるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 理学療法評価学 金原出版第6版、リハビリテーション基礎評価学 第2版(羊土社)、ベットサイドの神経の診かた、									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	前期の概要説明 (オリエンテーション)、FIM	オリエンテーション FIMの役割を理解し、説明できる							
2	FIM、BI	FIM、BIの役割を理解し、説明する							
3	脳血管疾患とは	脳血管疾患の病態や症状を理解する							
4	ブルンストローム・ステージ(Brunnstrom stage: Brs)	Brsの検査を理解し、実施できる							
5	SIAS: Stroke Impairment Assessment Set	SIASの検査を理解し、実施できる							
6	感覚検査(表在感覚・痛覚)	感覚検査を理解し、実施できる							
7	感覚検査(深部感覚・複合感覚)	感覚検査を理解し、実施できる							
8	筋緊張検査(筋トーンス検査)	筋緊張検査を理解し、実施できる							
9	表在反射・深部腱反射	反射を理解し、実施できる							
10	病的反射	反射を理解し、実施できる							
11	バランス検査	バランス検査が実施できる							
12	バランス検査	バランス検査が実施できる							
13	バランス検査	バランス検査が実施できる							
14	振り返り・復習	前期の内容を総復習する。テスト説明							
15	期末テスト(forms)	期末テスト							
〔成績評価について〕 レポート(20%)、forms試験(80%) 60%未満の場合授業態度で最大10%まで加味する。					〔特記事項・授業時間外における学習〕 服装:動きやすい格好(例:半袖、半ズボン、ジャージ、ケイシー可、ジーパン、チノパン、スカート、ワンピース不可) 触診があるため半袖半ズボンが好ましい。				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			繁森 将太
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 理学療法を施行するにあたっての、適切な評価方法を学ぶ。安全な検査・測定を実施できるよう座学と実技にて授業を行なう。授業ごとに予習・復習を欠かさないよう充分留意すること。									
〔到達目標〕 理学療法における身体機能の評価方法を正しく理解し、安全かつ正確に行なえるようになる。また、学んだ知識、技術を他者に分かりやすく、正確に伝えられるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 理学療法評価学 出版第6版,リハビリテーション基礎評価学 第2版(羊土社)、ベットサイドの神経の診かた									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	後期の概要説明 (オリエンテーション)	オリエンテーション							
2	歩行評価・検査	歩行評価ができる歩行評価ができる							
3	歩行評価・検査	歩行検査が実施できる							
4	歩行評価・検査	歩行検査が実施できる							
5	高次脳機能検査	高次脳機能検査を理解、説明、実施出来る							
6	高次脳機能検査	高次脳機能検査を実施出来る							
7	協調性	協調性評価を理解、説明、実施出来る							
8	協調性	協調性評価を実施出来る							
9	協調性	協調性評価を実施出来る							
10	整形外科テスト	整形外科テストについて理解し、説明できる							
11	整形外科テスト	整形外科テストが実施できる							
12	整形外科テスト	整形外科テストが実施できる							
13	整形外科テスト	整形外科テストが実施できる							
14	整形外科テスト/後期の復習/テスト説明	整形外科テストが実施できる。後期の内容を総復習する。テスト説明							
15	期末テスト	後期の内容を総復習する。							
〔成績評価について〕 レポート(40%)、期末試験(60%) 60%未満の場合授業態度で最大10%まで加味する。					〔特記事項・授業時間外における学習〕 服装:動きやすい格好(例:半袖、半ズボン、ジャージ、ケイシー可、ジーパン、チノパン、スカート、ワンピース不可) 触診があるため半袖半ズボンが好ましい。				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	運動療法学Ⅰ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
堀内 秀憲										

〔授業の学習内容と心構え〕

理学療法士として急性期病院、整形外科クリニック、老人保健施設、訪問看護ステーションで勤務した経験を持ち、スポーツ選手に対する理学療法を行っている担当者が、運動療法を実施していくなかで必要と考えられる基礎的な内容について授業を行う。また、目指す職種の様々な分野に共通し、必要になる知識でもあるため、積み重ねることで将来につながることを意識しながら受講してほしい。

〔到達目標〕

理学療法の中で中核となる運動療法学の基本的な知識を習得し、それを述べることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

Crosslink 運動療法学テキスト
 その他は必要があれば配布する。

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 運動療法とは アライメントと筋出力	アラメントの違いにより筋出力が変化することを知る 画一的に「〇〇すれば良くなる」ではないことを知る
2	運動療法とは クリニカルリーズニング(ボトムアップとトップダウン)	理学療法とは、運動療法とは リハビリテーションの中止基準について理解をすることができる クリニカルリーズニング(臨床推論)を知る
3	歩行と生活	歩行速度と生活、歩行速度Upに注目した関節の運動方向を考慮することができる
4	姿勢・動作、機能と傷害	姿勢・動作、機能と傷害についての関係について考えられる
5	関節可動域と運動療法	関節可動域制限が起こる理由を説明することができる 関節可動域拡大について説明することができる
6	筋機能と運動療法	運動療法により筋機能がどう変化していくかを説明することができる
7	基本動作と運動療法 寝返り動作のバイオメカニクス	寝返り動作のバイオメカニクスについて説明することができる 寝返り動作の運動療法について、筋機能改善を主な観点として説明することができる
8	中間テスト	テストにより効果測定を行い、理解が不十分な部分を把握するとともに、その理解度を高める。
9	協調性機能と運動療法	協調性に対する運動療法について説明することができる
10	基本動作と運動療法 起き上がり動作のバイオメカニクス	起座動作のバイオメカニクスについて説明することができる 起座動作の運動療法について筋機能、関節可動域、協調性の観点から説明することができる
11	バランス機能と運動療法	バランス機能に対する運動療法について説明することができる
12	前庭機能と運動療法	前庭機能に対する運動療法について説明できる。
13	基本動作と運動療法 起立・着座動作のバイオメカニクス	起立・着座動作のバイオメカニクスについて説明することができる 起立・着座動作の運動療法について筋機能、関節可動域、協調性、バランス機能、前庭機能の観点から説明することができる
14	移乗動作	移乗動作を知ることができる
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、理解が不十分な部分を把握するとともに、その理解度を高める。

〔成績評価について〕

評価はノートPC等のデバイスを使用した多肢選択式の試験で実施する。
 中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

特記事項
 実習室のベッド等で実際に運動療法をする時間があるので、様々な姿勢や動作に耐えられる輻輳で参加すること。
 授業時間外における学習について
 基本的には事前学習として各単元に関する内容の構造について調べてくること
 事後学習としては配布資料等をもとに理解を深め、説明できるようにすること

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名	運動療法学Ⅰ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	
							堀内 秀憲	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

理学療法士として急性期病院、整形外科クリニック、老人保健施設、訪問看護ステーションで勤務した経験を持ち、スポーツ選手に対する理学療法を行っている担当者が、運動療法を実施していくなかで必要と考えられる基礎的な内容について授業を行う。また、目指す職種の様々な分野に共通し、必要になる知識でもあるため、積み重ねることで将来につながることを意識しながら受講してほしい。

〔到達目標〕

理学療法の中で中核となる運動療法学の基本的な知識を習得し、それを述べることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

Crosslink 運動療法学テキスト
 その他は必要があれば配布する。

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 末梢神経機能と運動療法	末梢神経障害が理解できる。 末梢神経障害に対する運動療法が理解できる。
2	中枢神経機能と運動療法	中枢神経障害が理解できる。 中枢神経障害に対する運動療法が理解できる。
3	運動学習と運動療法	運動学習について説明することができる
4	呼吸機能と運動療法	呼吸機能と運動療法について説明することができる
5	循環機能と運動療法	循環機能と運動療法について説明することができる
6	代謝機能と運動療法	代謝機能と運動療法について説明することができる
7	移動動作(松葉杖等)	松葉杖を安全に使用することができる
8	中間試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた	運動療法プログラム作成のための情報収集のしかたの大枠について知ることができる
10	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた	運動療法プログラム作成のための情報収集を模擬的にすることができる
11	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた	運動療法プログラム作成のための情報収集を模擬的にすることができる
12	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかたを知ることができる
13	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかたを知ることができる
14	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかたを知ることができる
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、理解が不十分な部分を把握するとともに、その理解度を高める。

〔成績評価について〕

評価はノートPC等のデバイスを使用した多肢選択式の試験で実施する。
 中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

特記事項
 実習室のベッド等で実際に運動療法をする時間があるので、様々な姿勢や動作に耐えられる輻輳で参加すること。

授業時間外における学習について
 基本的には事前学習として各単元に関する内容の構造について調べてくること
 事後学習としては配布資料等をもとに理解を深め、説明できるようにすること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
疾患別理学療法学Ⅰ										

〔授業の学習内容と心構え〕

①整形外科疾患の病態を理解する、②整形外科疾患の病態に対する適切な理学療法を学ぶ、③与えられた疾患に対する医学療法を立案し実施できる様になる
 回復期リハビリテーション病院、整形外科クリニックで実務経験をした理学療法士教員より、整形外科疾患患者に対するリハビリテーションを患者に提供するうえで必要な知識を学ぶ。

〔到達目標〕

整形外科疾患に対し適切な評価を行うことができるようになる
 整形外科疾患に対し適切な理学療法を立案出来るようになる
 各整形外科疾患に対する症状などを説明することができる

〔使用教材、参考文献等〕

シンプル理学療法学シリーズ
 理学療法概論テキスト改訂第3版（南江堂）

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	変形性膝関節に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
2	変形性膝関節症に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
3	変形性股関節症に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
4	変形性股関節症に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
5	腰部疾患(腰痛・ヘルニア)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
6	腰部疾患(脊柱管狭窄症・骨折)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
7	下肢骨折(大腿骨頸部骨折)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
8	下肢骨折(下腿骨折)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
9	上肢骨折に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
10	肩関節(周囲炎)に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
11	肩関節(腱板損傷・腱板断裂)に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
12	下肢切断に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
13	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
14	発表	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。
15	発表	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの立案ができる。

〔成績評価について〕

課題提出と発表をもって点数をつける

〔特記事項・授業時間外における学習〕

前もって整形外科疾患の症状や良く行われる検査やリハビリテーションについて予習・復習してくることで、理学療法プログラムの立案に役立つ。
 単位認定は課題レポートとする。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名			必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
							鈴木 広大			

〔授業の学習内容と心構え〕

①整形外科疾患の病態を理解する、②整形外科疾患の病態に対する適切な理学療法を学ぶ、③与えられた疾患に対する医学療法を立案し実施できる様になる
 回復期リハビリテーション病院、整形外科クリニックで実務経験をした理学療法士教員より、整形外科疾患患者に対するリハビリテーションを患者に提供するうえで必要な知識と技術を学ぶ。

〔到達目標〕

整形外科疾患に対し適切な評価を行うことができるようになる
 整形外科疾患に対し適切な理学療法を立案出来るようになる
 各整形外科疾患に対する症状などを説明することができる

〔使用教材、参考文献等〕

シンプル理学療法学シリーズ
 理学療法概論テキスト改訂第3版（南江堂）

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	変形性膝関節に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
2	変形性膝関節症に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
3	変形性股関節症に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
4	変形性股関節症に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
5	腰部疾患(腰痛・ヘルニア)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
6	腰部疾患(脊柱管狭窄症・骨折)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
7	下肢骨折(大腿骨頸部骨折)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
8	下肢骨折(下腿骨折)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
9	上肢骨折に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
10	肩関節(周囲炎)に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
11	肩関節(腱板損傷・腱板断裂)に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
12	下肢切断に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
13	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
14	発表	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
15	発表	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。

〔成績評価について〕

単位認定は課題レポートと発表とする

〔特記事項・授業時間外における学習〕

前もって整形外科疾患の症状や良く行われる検査やリハビリテーションについて予習・復習しておくことで、理学療法プログラムの立案に役立つ。
 実践の授業の際は動ける格好で参加すること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			佐藤 俊生
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
各物理的刺激が生体にどのような反応を与えているか、生理学的知識を応用して理解するとともに、実際の治療にどのように適応していくことができるか理解する。また、物理的刺激を生体に治療として用いるにあたり、治療前後の対象者の状態を把握(評価)できるか理解し、治療効果を検討するための方法を理解する。									
〔到達目標〕									
物理療法を実施するために必要な生理学等の基礎を理解し、温熱・寒冷・光線・水治などの各療法の原理と治療目的、適応と禁忌、リスク管理を学習し説明することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
「物理療法学」(医学書院) 参考文献)物理療法関連書籍、各種論文、その他									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	オリエンテーション、総論(定義、種類、現状) 物理療法におけるリスク管理	物理療法の現状を説明できる。 リスクの種類やリスク管理について説明できる。							
2	温熱療法総論 温熱療法の基礎と生理学的作用 一般的な適応と禁忌	温熱療法の基礎的事項を説明できる。 一般的な温熱療法の適応と禁忌を述べられる。							
3	温熱療法各論1 ホットパック・パラフィン	ホットパック・パラフィンの基礎的事項を踏まえ実施方法を説明できる。							
4	温熱療法各論2 超音波療法① 基礎的事項、生体内作用	超音波の基礎的事項と生体内作用について説明できる。							
5	温熱療法各論3 超音波療法② 適応・禁忌、使用方法	超音波の適応・禁忌事項を踏まえて実施方法を説明できる。							
6	寒冷療法総論、寒冷療法の実際	寒冷療法の生理学的作用や実施方法を説明できる。							
7	水治療法総論 各論(部分浴、全身浴、水中運動療法)	水治療法の基礎を説明できる。各種の実施方法を説明できる。また、水中運動療法の注意点を説明できる。							
8	中間試験(1～7回目の内容) 復習	ここまで扱った内容を説明できる。							
9	光線療法総論 光線療法各論1 紫外線療法	光線療法の基礎、紫外線療法の特徴を説明できる。							
10	光線療法各論2 赤外線療法、レーザー療法 高周波療法(超短波療法、極超短波療法)	赤外線療法、レーザー療法、高周波療法の基礎的事項と実施方法を説明できる。							
11	電気刺激療法総論①	電気刺激療法の基礎的事項が説明できる。							
12	電気刺激療法総論②	電気刺激療法の基礎的事項が説明できる。							
13	電気刺激療法各論1 治療的電気刺激(TES)①	中枢神経障害に対する治療的電気刺激(TES)について説明できる。							
14	治療的電気刺激(TES)②	末梢神経障害やその他の障害に対する治療的電気刺激(TES)について説明できる。							
15	まとめ、期末試験(9～14回目の内容)	これまでに扱った内容について疾患・症状に応じて適切な実施方法を選択し説明することができる。							
〔成績評価について〕					〔特記事項・授業時間外における学習〕				
中間試験 50% 期末試験 50%					シラバスを確認しテキストの内容を事前に確認しておくこと。 授業後には実施内容について復習をすること。 授業進行に応じて確認テストを配信するので復習で活用してください。				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			佐藤 俊生
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 各物理的刺激が生体にどのような反応を与えているか、生理学的知識を応用して理解するとともに、実際の治療にどのように適応していくことができるか理解する。また、物理的刺激を生体に治療として用いるにあたり、治療前後の対象者の状態を把握(評価)できるか理解し、治療効果を検討するための方法を理解する。									
〔到達目標〕 物理療法を実施するために必要な生理学等の基礎を理解し、電気刺激・牽引などの各療法の原理と治療目的、適応と禁忌、リスク管理を学習し説明することができる。各種物理療法の原理や生理学的作用を踏まえ、効果検証を実施し考察できる。									
〔使用教材、参考文献等〕 「物理療法学」(医学書院)									
回	〔授業単元〕			到達目標(できるようになること)					
1	電気刺激療法各論2 機能的電気刺激(FES)			機能的電気刺激について説明できる。					
2	電気刺激療法各論3 疼痛とは 経皮的電気神経刺激療法(TENS)			疼痛の概念について説明できる。経皮的電気神経刺激療法の基礎と実施方法が説明できる。					
3	電気刺激療法各論4 干渉電流療法、特殊刺激法			干渉波療法やrTMS・tDCSについて説明できる。					
4	バイオフィードバック 牽引療法 総論、頸椎牽引、骨盤牽引			バイオフィードバック療法・牽引療法の基礎的事項と頸椎牽引・骨盤牽引の実施方法が説明できる。					
5	徒手療法1 徒手療法総論 関節モビライゼーション①			徒手療法の基礎、関節運動学の基礎を説明できる。 上下肢の関節モビライゼーションを体験する。					
6	徒手療法2 関節モビライゼーション②			上下肢の関節モビライゼーションを体験し実施方法を説明できる。					
7	徒手療法3 軟部組織モビライゼーション			軟部組織モビライゼーションを体験し、実施方法を説明できる。					
8	中間試験(1~7回目の内容) 復習			ここまで扱った内容を説明できる。					
9	徒手療法4 軟部組織モビライゼーション			軟部組織モビライゼーションを体験し、実施方法を説明できる。					
10	物理療法体験 1(課題提出有) (ホットパック、パラフィン、超音波、光線、水治、牽引)			各療法の基礎を踏まえて機器の操作ができる。 各療法の被治療感を述べられる。					
11	物理療法体験 2(課題提出有) (ホットパック、パラフィン、超音波、光線、水治、牽引)			各療法の基礎を踏まえて機器の操作ができる。 各療法の被治療感を述べられる。					
12	物理療法体験(課題提出有) 対象者への適応			各治療法について実施方法を確認し、模擬患者に対して説明と治療を実施することができる。					
13	物理療法体験(課題提出有) 対象者への適応			各治療法について実施方法を確認し、模擬患者に対して説明と治療を実施することができる。					
14	物理療法の効果を検討1(オリエンテーション・計画作成)			物理療法の基礎を踏まえ、物理療法の実施方法と実施前後の検査測定について計画できる。					
15	物理療法の効果を検討2(実習)			実際に物理療法を実施し、前後の変化を測定することができる。					
〔成績評価について〕 物理療法体験時の課題 40%(10%×4回(10、11、12、13回目)) 中間試験 30% 期末課題レポート 30%				〔特記事項・授業時間外における学習〕 シラバスを確認し該当するページを事前に確認しておくこと。 授業進行に応じて小テストを配信する。					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			齊藤 岳
授業科目名		義肢装具学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕 義肢学及び装具学の概要から応用まで学ぶ。併せて実習などを通じ、将来臨床にて義肢・装具についての対応ができるよう最低限の知識を持たせることを目的とする。</p>											
<p>〔到達目標〕 国家試験における義肢・装具学分野に対応できるようにする。また、実務的なことにおいても最低限の知識を身につけるようにする。</p>											
<p>〔使用教材、参考文献等〕 義肢装具学テキスト</p>											
回	〔授業単元〕		到達目標(できるようになること)								
1	義肢・装具概論		義肢・装具の知識を身につける								
2	下肢装具概論 SHB採型デモ		採型デモにより製作工程などを理解する								
3	装具学力学概論		装具に必要なモーメントについて理解する								
4	足底装具 採型実習デモ		足底装具の概念・採型手技について理解する								
5	足底装具 採型実習		上記と同じ								
6	下肢装具概論		下肢装具の概要について理解する。								
7	足底装具・靴型装具概論		足底装具・靴型装具の概要について理解する。								
8	中間試験 解説		ここまで扱った内容を説明できる。								
9	義足概論		義足の基本知識を身につける								
10	下腿義足概論		下腿義足の種類などについて理解する								
11	下腿義足アライメント		下腿義足アライメントについて理解する								
12	大腿義足概論		大腿義足の種類や膝継手について理解する								
13	大腿義足アライメント		大腿義足のアライメントについて理解する								
14	義足まとめ		大腿・下腿義足、以上歩行について整理し説明できる								
15	期末テスト 解説		ここまで扱った内容を説明できる。								
〔成績評価について〕						〔特記事項・授業時間外における学習〕					
中間試験30% 期末試験30% 小テスト40% トータル60%未満を不合格とする						再試験はレポート提出にて対応する。ただし、レポート内容が最低限の基準に満たない場合、不可とする。(コピーしただけ、解答のみ記入、解説なしなど)					